村政に尽された九氏を表彰
――53年度村表彰式――

村では村政の発展・産業・文化・社会福祉の向上などに永年にわたり尽力された功績をたたえるため毎年十一月三日、文化の日に村の表彰条例に基づいて表彰を行なっております。

今年度は次の七名の方が表彰されました。

一、村の行政・教育・文化・産業・保健衛生・民生・土木・土地改良・災害・納税・慈善事業・その他公益事業について功労顕著なる者。

本間　沢治殿

月潟中学校卓球部コーチとして卓球関東大会及び全国大会出場の栄誉をもたらされた功績。

二、満八年以上議会議員の職にあった者。

横山　貫一殿

満八年以上村議会議員として村政発展に尽された功績。

三、満九年以上農業委員会委員の職にあった者及び満十二年以上監査委員、選挙管理委員、教育委員会委員の職にあった者。

渡辺仁三郎殿
児玉　重一殿
間島幸太郎殿
曽山　弘殿

満九年以上農業委員会委員として村政に尽された功績

間島　吉治殿

満十二年以上教育委員会委員として村政発展に尽された功績

△写真は前列右から本間沢治さん（代理田村中学校教頭）、渡辺仁三郎さん、曽山弘さん、金子村長横山貫一さん、間島幸太郎さん、後列右から田村総務課長、池田収入役、市島総文委員長、小林議長神保副議長、田中助役▽児玉重一さん、間島吉治さんは欠席されました。

年末・年始
防犯はみんなの注意と協力で

年末、年始ともなりますと、例年、盗難や暴力などの犯罪、少年非行、交通事故などが多く発生しています。警察では、このため年末年始の特別警戒を実施することにしていますが、みなさんもこれに協力するのはもちろん次のことに注意して明るい楽しいお正月を迎えるようにしましょう。

一、家庭防犯

。多額の現金は家に置かず、戸締り。銀行などからお金をおろしての帰りには特に注意。ひったくりが横行しています。

二、少年の非行防止

。親子の話し合いの機会をもつとともに、子供の行動や持ち物にも細かい関心を。

。喫煙、服装のみだれ、無断の夜遊びは非行のもと。

三、暴力の追放

。暴力を受けたら泣き寝入りしないで警察に連絡を。

。暴力を見たとき、きいたときも一一〇番

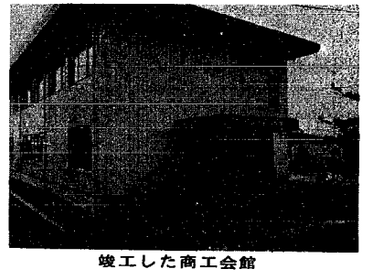
四、交通事故防止

。飲酒、暴走、いねむり運転は絶対にしない、させない。

。交通ルールを守って、正しい運転を。

月潟村商工会館が完成
十一月一日から業務開始

本村商工業振興の拠点として会員を始め、関係者の間で渇望されていた「月潟村商工会館」は、このほど完成、十一月六日に関係者が出席して、喜びの竣工式が行なわれました。



竣工した商工会館

登石栄作会長は、「会員二百十数名の努力と協力、県及び村当局を始め、関係機関のご協力とご援助のおかげです。今後は、この会館を中心に会員一同が一致団結して互いに研讃を重ねて経営改善普及事業を中心とした商工会活動を推進し、地域経済の発展を図ることがご協力頂いた皆さんに対する私達の努めであり、責任の重大さを痛感しています。」と喜こびを話されました。

なお、この会館は、一般の会議などでもあいていればお貸しするということですから、その場合には事務所にご照会ください。

秋の全国火災予防運動
26日～12月2日

六分に一件の割合で火災が発生し、一日に六人が焼死、二十七人が負傷

――これが、今年一月～六月の"火災発生ペース"（全国）です。火災の発生原因は、相変わらず「たばこ」が第一位を占め、死傷者では、老人と子供の増加がめだつています。

今年も十一月二十六日から十二月二日まで、秋の火災予防運動が行われます。

六分間に一件の割合
一日三億九千万円が灰に

四万一千二百二十二件が、ことし一月から六月までの半年間に、全国で発生した火災の発生件数です。

これを一日あたりになおしてみると、二百二十八件となり、六分間に一件の割合で消防署がサイレンをうならせているのです。

損害額でも一日あたり三億九千万円が灰になり、死傷者も毎日この日本列島のどこかで六人の尊い命が失われ、二十七人が負傷していることになります。

このため、今回の火災予防運動は、ひとりひとりの防火意識の向上と火災発生の防止、火災による人命及び財産の損失防止を目的として次の重点項目を掲げて実施されます。

一、幼児、老人、身体不自由者等の焼死防止対策の強化

二、バー・キャバレー・旅館・雑居ビル等の防火管理体制の強化

三、地域ぐるみの防火協力体制の確立

火災は一瞬にして私たちの大切な財産を奪い、ときには尊い生命までも奪う恐ろしいものです。

しかし、ほんの少し注意すれば十分に防ぐことができます。今夜の家族だんらんのひととき、防火について話しあい、この機会に家庭の防火計画を作ってみてはどうでしょうか。

なお、月潟村では**午後九時を「消防の時間」**に定めています。おやすみの前にはもちろん、午後九時のサイレンにあわせて家庭内の火の元を点検する習慣をつけましょう。

▽▽▽